

琉球大に薬学部創設を要望 沖縄県薬など4師会連名で

薬学部がない沖縄県にとって全国で最も少ない薬剤師不足の新たな救世主となるか——。琉球大学を最優先とした県内の国公立大学への薬学部創設を訴えてきた沖縄県薬剤師会（亀谷浩昌会長）は6月13日、県医師会、県歯科医師会、県看護協会との4者連名で行っていた署名活動で10万1660筆の署名が集まったことを受け、薬学部新設を求める要望書と署名を琉球大学の大城肇学長に提出した。大城学長は、10万筆を超える署名について「重く受け止めている」と語った。

亀谷会長は、当初目標としていた5万筆をはるかに超える数の署名が集まったことを強調し、「薬学部創設に対する県民の強い要望の現れだと確信している」とし、琉球大への薬学部創設を強く要請すると語った。

琉球大医学部と同付属病院の西普天間住宅地区跡地への移転に伴う基本計画の中に、沖縄の天然資源利用による創薬研究が盛り込まれていることに触れ、「琉球大に薬学部が創設されれば、医と薬の協働により、効率的な研究体制が構築できる」と薬学部創設のメリットも訴えた。

また、国が進める地域包括ケアシステムにおいても、薬物療法を支える薬剤師の役割に期待が寄せられているが、沖縄は人口10万人当たりの薬剤師数が全国の都道府県の中で最も少なく、薬剤師の確保に力を入れているものの、現状では県外の薬系大学を卒業すると、そのまま県外で就職するケースが多い点も指摘。県内に私立大学ではなく、国公立大学の薬学部を創設することにより、「学生や親の負担軽減につながるだけでなく、県外から優秀な頭脳が集まる」とし、琉球大を最優先とした薬学部創設を求めた。

これに対し、大城学長は、「県内医療職種の尽力によって、多くの署名が集まったことに敬意を表したい」としつつ、文部科学省は新たに学部を創設する際には、他学部を一つ廃止するスクラップアンドビルドが必要になるとの認識を示していることから、「まだまだハードルが高い」と厳しい認識も示した。ただ、「多くの県民の要望がある」ともし、「学内で検討していきたい」と引き取った。今後、薬学部創設に向けては予断を許さない状況が続くことになる。

日薬は「慎重に検討すべき」

これまで対面を原則としていた保険薬局でのオンライン服薬指導が現実味を帯びてきそう。政府の規制改革推進会議がまとめた答申では、医療・介護分野に関して、診療から薬の受け取りまで一貫してオンラインで完結できるよう2019年度上期をメドに対面による服薬指導とオンラインによる服薬指導の組み合わせを実現させることが盛り込まれた。今年度中に処方箋の完全電子化導入までの工程表を作成・公表することも求めており、一層の効率化を促す内容となった。

医療・介護分野でテーマとして取り上げられた「一気通貫の在宅医療実現」は、患者が受診から服薬指導、薬の受け取りまで一貫して、オンラインで完結できるようにすることを目的としたもの。現在のオンライン医療では、診療は「非対面」が認められているものの、薬剤師による服薬指導は対面が義務づけられており、オンライン診療を受けた場合でも、薬を受け取るには郵送された処方箋か電子処方箋引換証を薬局に持参する必要がある。

こうした現状を踏まえ、答申では、今年度中に「薬剤

規制改革推進会議が答申

オンライン服薬指導の実現盛る



添付文書の電子化 議論始まる 「紙と共存必要」との意見も

紙の添付文書を電子化する流れが出てきた。紙製の添付文書は、最新情報の情報源として役割を果たしていないと疑問の声が出ていたが、厚生労働省の審議会でも、医薬品の添付文書を電子化すべきかどうか議論が始まった。紙の添付文書と製薬企業のホームページなどの電子媒体で医療者に情報提供しているのが現状で、紙媒体では迅速な情報提供ができないと指摘されてきたが、委員からは「電子化に移行するのは当然の流れ」など、電子化を進めるべきとの賛成意見が相次いだ。一部委員は方向性に賛同しつつ、「全てを電子化するのは現場の混乱を招く。当面は紙と電子化の共存が必要」などと電子媒体のみでの情報提供に慎重姿勢を示した。当面は紙と併存しつつ、最終的

には電子化する流れは間違いなく加速しそうだ。

医薬品の用法・用量、取り扱い上の必要な注意といった情報は、容器か外箱に記載することとされ、それが不可能な場合は添付文書として製品に同梱することが求められている。一方、製薬企業や医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページでも最新情報が公表されており、医療従事者が現場で閲覧できるようになっている。

厚労省は、紙の添付文書について現状の問題点を列挙。頻繁に添付文書が改訂される中で、医薬品卸や医療機関の在庫品に同梱した添付文書は情報が更新されないままであり、迅速な情報提供に必ずしも役立っていないことを指摘。全ての製品に同梱されていることが紙資源の浪費につながっ

ている現状も挙げた。

審議会の議論では、紙の添付文書を残すべきか、電子媒体のみで情報提供すべきかなど、医薬品の情報提供のあり方をめぐって意見が交わされ、「全ての添付文書を電子化することは無理かもしれないが、最新情報を提供できるので、電子化に移行するのは当然の流れだ。ぜひ進めてほしい」、「身近に紙の添付文書があっても今はスマートフォンなどで検索して見る傾向がある。紙の添付文書をアップデートする作業を考えたら、その労力をもっと有効活用してほしい」と賛成意見が相次いだ。

これに対し、日本医師会の委員は「電子化は賛成」としつつ、「ITリテラシーが高い医師ばかりではないことを考えると、紙と電子の両方に取り組んでほしい。電子化のみというのはまだ時期尚早だ」と述べ、日本薬剤師会の委員も「電子化を進める方向性は賛同する」としたが、「いきなり全てを電子化するのは現場の混乱を招く。当面は紙と電子の共存が必要ではないか」とした。



夢を掴む「青」

夏期講習受付中～HPをご確認ください！

<http://www.yakuzemi.ac.jp>

☎ 0120-77-8903

青本

長年の信頼と実績
薬剤師国家試験対策参考書
2019年版（第104回対応）

好評発売中！



1. 物理
2. 化学
3. 生物
4. 衛生
5. 薬理
6. 薬剤
7. 病態・薬物治療
8. 法規・制度・倫理
9. 実務

セット価格：34,200円（税抜）



学校法人医学アカデミー

薬学ゼミナール
薬剤師国家試験対策予備校